

一 至も愛すべきイエズス、我は十字架につけられ給える御身の尊前にひれ伏し、至聖なる童貞マリア及び在天の諸天使、諸聖人と共に、主の右手の聖なる御傷を礼拝し、我罪を償わん為主が限りなき愛もて、かくもおびたゞしく、かくも酷き御苦しみを忍び給えるを感謝し、心より罪を悔み奉る。我は、主の聖会には、敵に対する勝利、又その凡ての子等には主の定め給いし掟の道を、敬虔に歩むの御恵みを願ひ奉る。

主禱文 天使祝詞 栄誦

二 至も愛すべきイエズス、我は十字架につけられ給える御身の尊前にひれ伏し、至聖なる童貞マリア及び在天の諸天使、諸聖人と共に、主の左手の聖なる御傷を礼拝し、憐れなる罪人及び死に臨める人、特に臨終に当りて主の元に帰えるを拒む人々の上に御恵みを乞い願ひ奉る。

主禱文 天使祝詞 栄誦

三 至も愛すべきイエズス、我は十字架につけられ給える御身の尊前にひれ伏し、至聖なる童貞マリア及び在天の諸天使、諸聖人と共に、主の右足の御傷を礼拝し、御恵みによりて凡ての聖職者並びに御身に献身する人々の中に、聖徳の花の咲きみだれんこ



ああキリストよ、主は尊き十字架をもって世をあがない給いしにより、われら主を礼拝し、主を讚美し奉る。

とを祈り奉る。

主禱文 天使祝詞 栄誦

四 至も愛すべきイエズス、我は十字架につけられ給える御身の尊前にひれ伏し、至聖なる童貞マリア、及び在天の諸天使、諸聖人と共に、主の左足の御傷を礼拝し、煉獄に在る靈魂の解放、殊に生涯御身の聖痕に対する信心の厚かりし靈魂の解放を願ひ奉る。

主禱文 天使祝詞 栄誦

五 至も愛すべきイエズス、我は十字架につけられ給える御身の尊前にひれ伏し、至聖なる童貞マリア及び在天の諸天使、諸聖人と共に、主の至聖なる御脇腹の傷を礼拝し、我が祈りを求めたる人々を祝し、その願いを聴納れ給わんことを。

主禱文 天使祝詞 栄誦 悲しみの聖母、我等の為に祈り給え。三回

六 十字架上のイエズスよ、主の御苦難の功徳を以って、是等の祈りを強め、聖なる生涯と臨終に当りて秘蹟を蒙るの恵みを我に得させ、遂に永遠の光榮を得せしめ給え。アーメン。之を誦える度毎、三百日の分贖有。煉獄の靈魂の為に用いうる

『至聖なる十字架、無原罪のマリア会』は一九一四年五月九日附大司教の布告によつて Turin 市のキリスト教学校修士会の修道院に於いて創立され、カルヂナル・パトロマジの保護に委ねられたもので、その主旨は、カトリック信者、特にカトリック青年の間に、キリスト教的信心と贖罪と聖なる奮発心を喚起することである。この会は次の三つの種類の会員で構成される。『伝道者』『協力会員』『登録会員』。○伝道者は、キリスト教の教義を教え、祝日及び規定された日に会合する。○協力会員は、伝道者の仕事を扶ける信者で、次の事を果すよう努力する。1 毎日『十字架のイエズスに対する信心』をなし、此の信心の普及に尽力する。2 少くとも月に一度会合する。○登録会員は、毎日『十字架のイエズスに対する信心』を行うよう努力する信者である。協力会員、及び登録会員になりたい信者は、本会の事務所、姓名、住所、希望会員名を通知せねばならない。尚会員の登録は無料であるが、本会を援助する為の喜捨は拒まない。『十字架のイエズスに対する信心』のお祈りの欲しい方には事務所から無料を送附致します。

仙台市原ノ町案内一八 ラ・サール ホーム

贖宥と特権 協力会員若しくは少くも登録会員として、伝道士会に加入した者は、次の恩典に与る。

A キリスト教学校修士会の修道士、及び伝道士会の会員が、"十字架につけられたるイエズスの信心"を拡める事に依つて得た霊的宝。

B 生前、死後を通じて、フランシスコ会及びその総会長の下に在る凡ての人々の功德。

C 特に、生前、死後を通じて、"マリアの侍女会"の霊的恩恵。

D ローマのイエズス会修道院に設立された"御告げの会の第一会"に与えられた凡ての霊的特権。

E 聖ドン・ボスコのサレジオ会後援会に与えられた凡ての霊的特権

教皇掩蔽

凡て、主の司祭たる者は、言葉と模範とを以つて、平信者は、聖なる生涯を以つて、イエズス・キリスト、殊に十字架につけられ給える此のイエズスを宜べるの義務を負えるにより、我等は Turin に創立された"至聖なる十字架の信心会"の指導者とその会員とを恩寵もて充し給わん事を、主に祈るものである。

ヴァテカン 一九一五年一月一八日 ベネデイクト十五世

十字架につけられたるイエズスの信心

一九二二年二月二七日、Turin で聖徳の香り高き生涯を閉じたフランシスコ会のレオポルド修道士によつて書かれ、拡められたものであつて、同じレオポルド修道士が、是が全世界への普及を 至聖なる十字架の伝道士会 及び 無原罪のマリア会 の協力を得て、キリスト教学校修士会に委託したものである。

IMPRIMATUR

Datum Sendai die 29.^a Jan. A.D. 1956

† Petrus Kobayashi Arikata

Episcopus Sendaiensis

十字架のイエズスに対する信心

目的

一、イエズス。キリストを社会と家庭と学校とから締め出そうとする、不信心、冒瀆、忘恩の人々から主が受け給りおびたゞしい侮辱に対して、謝罪すること。

二、人々の心に、罪の痛悔、我等の主イエズス・キリストに対する愛と感謝、又しばしば聖体拝領によつて主を受け奉る望みを起すこと。

三、家庭に於けるキリスト教的な生活、青少年に対する健全な教育、罪人の改心を計る仕事

成るべく十字架の御絵の前にひざまずいて、敬虔に主の五つの御傷を礼拝し、自分及び他人の罪の許しを求めつつ、次のように誦える。

天主よ、我を助けんと志し給え 主よ、我を助けにとく来り給え